

県連フィールドを開催しました

今年の3/11～3/12にかけて県連フィールドと奨学生合宿を開催しました。

宮崎生協病院が所属する宮崎民医連では、年に1回、私たちの医療活動を患者さんや地域を通して考える「フィールド企画」、宮崎民医連の医学科・看護奨学生を対象とした「奨学生合宿」を開催しています。今回は、宮崎市内にある3つのクリニック（P8参照）を通院や在宅療養（往診）で利用する患者さんのご自宅へ訪問し、療養生活だけでなくその方々の生活背景を含め、気になった点や提案などを学生さんの視点でまとめ、報告会を行いました。

2日目は宮崎民医連に所属する医師から、宮崎民医連が目指す医療活動と求められる医師像、後期研修中の2名の医師から自らの研修において学んだことや、民医連で医療をすることの魅力について講演を行いました。講演後は、参加した奨学生、医師が3つのグループに分かれて将来目指したい医師像についてディスカッションを行いました。

1 フィールドワーク 患者宅訪問聞き取り調査

クリニックの患者さんや介護事業所の利用者さんに、病気の経歴、医療や生活の場面で困っていること、医師に対する思いなどをお聞きしました。

〈事例〉

- 84歳・女性
- 病歴：
糖尿病およびその合併症、高血圧、右目に網膜剥離、左目に白内障
- 通院・介護：
要介護1、通院（2週間に1回）、デイサービスを週3回利用
- 同居：
現在は弟と妹と3人暮らし



〈聞き取り内容〉

- ・糖尿病治療で、毎日自分でインスリン注射、および3回の血糖測定を行っている。
- ・クリニックにはシルバーカーを押しながら徒歩で来ている。
- ・日中は主にテレビ鑑賞をしたり、新聞を読んでいる。時代劇が好き。ものづくりが趣味で、小物入れなどを作ってクリニックに置いたりしている。
- ・周囲には介護施設が数多くある。
- ・もともとは別のクリニックに通院していたが、2006年からこのはなクリニックに通い始めた。クリニックの中村先生が好き。病院にはとても満足しており、不満などはない。医学生には優しい先生になることを希望している



〈考察〉

- ・話を聞いて、患者さんはとても充実しているといったが、それには家族の協力があってこそだと感じた。
- ・クリニック職員の自発的な往診など、包括的なケアが患者さんの健康を守っていることがわかった。
- ・「優しい先生」になってほしいといったが、そのためには患者さんの生きがいを見つけてあげることが大切だと思った。



講演会

講師 宮崎民医連 高田慎吾会長

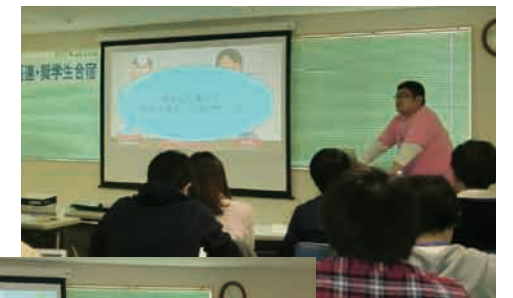
宮崎民医連の目指している医療活動と方向性を示し、求められる医師像、実際に必要とされる診療科（専門分野）について具体的に講演をして頂きました。



若手医師の話

研修医が語る症例を通して感じる宮崎生協病院の研修の魅力

8年目医師の眞川医師、4年目研修医の坂口医師に症例を通して研修の魅力、自ら目指している医師像、将来医師になる医学生への想いを話していただきました。



参加学生の感想

初めて和知川原生協クリニックに行き、とてもきれいなクリニックでした。地域住民のニーズに応えようとするクリニックの役割を感じることができました。

クリニックは外来数も多いと感じたが、訪問診療の数はさらに多いと感じました。今後さらに訪問診療の数は増えてくると思うが、どのようにカバーしていくかが気になりました。

先生がほぼ1人で訪問診療、外来、夜間をされていることに感動し、最小・単位で地域の患者さんに向き合う医療を見ることができました。

介護施設に初めて行きました。施設の職員の方が、ほとんど身の回りのお世話をされていて、診療の中で見えない部分まで考えられるようになりたいと思いました。